

シンポジウム 三陸から高知への伝言

津波経験の伝承ネットワーク作り

日時:3月16日(土)午後1時半～4時半

申込必要

場所:高知城ホール2階(高知市丸の内2-1-10 高知城北側 駐車場なし TEL822-2035)

参加料:無料(ただし、ネットワーク作り懇談会は会費1500円)

東日本大震災から8年が経ち、被災地でも災害記憶の風化が課題となっています。公務員の多くが異動、転勤を経験し、防災担当部署に震災経験者がいないケースも増えてきました。

一方南海トラフ巨大地震と津波対策を進めている高知県でも、特にソフト面での対策は手探りです。避難対策、応急時の機能配置、啓発など三陸の経験から学ぶことは多くあります。

シンポジウムでは気仙沼市役所の元危機管理課長、避難所・仮設住宅を経験した南三陸町の語り部をお招きし、高知県の課題に即して災害記憶の伝承を行います。なお、お二人には事前に土佐市、中土佐町の関係者と会って、防災の現場も視察していただく予定です。

プログラム

13:00 開場

13:30～16:30 主催者あいさつ、シンポジウム

16:30～18:00 ネットワーク作り懇談会

(三陸のお二人と打ちとけて話す機会です)

申込み締切:3月13日(水)

電話、FAXまたはEメールで、ご氏名、ご職業、連絡先、懇談会参加有無を明記の上、お申し込みください。

申込先 高知大学防災推進センター 島、新納(にいの)

FAX 088-844-8718 電話 088-844-8920

Eメール sanriku@kochi-u.ac.jp

パネリスト(敬称略)

佐藤 健一(元気仙沼市危機管理課長) 気仙沼市で長年にわたり漁港や海岸の施設整備、住民避難に重きを置いた津波防災・地域防災に取り組んだ。震災後は復旧に力を尽くした。現在コンサルティング会社技師長。著書に「いま被災地から訴えたいこと」「地域防災力の向上を目指して」

後藤 一磨(南三陸町在住 町文化財保護委員長) 津波到達時は自宅から高台へ避難、自宅と車が流されるのを見た。その後避難所・仮設住宅での暮らしを経験した。南三陸町の語り部として全国で自然と人間の共生について話している。

原 忠(高知大学理工学部教授) 防災関係の各種審議会委員などを務める。専門の地盤工学にとどまらず、地域防災、まちづくり、防災教育などのソフト面にも詳しい。現場主義を貫き、国内外の災害現場での調査を数多く行っている。

司会:新納 宏(高知大学地域協働教育学部部門教授、防災推進センター)

主催 高知大学防災推進センター

後援 高知家・地震防災ネットワーク、高知県、高知新聞社、RKC高知放送

写真:気仙沼港